第３章

地域の歴史・文化を未来へつなぐ



1965（昭和40）年ごろの旧君津駅舎
企業誘致の記録-君津と新日鐵-（千葉県立上総博物館 平成14年度企画展）より、君津市提供写真。

公民館は、地域の歴史を次世代に「つなぐ」こともその役割１つと言えます。講座の一部や、公民館だよりの紙面など様々な場面で取り組んできましたが、この10年で特に象徴的だったのが、「すさい・まちの変化 100の記憶」です。この取り組みを振り返りながら、開館から20年を迎えた周西公民館が地域で果たす役割を改めて考えてみたいと思います。

第１節　「すさい・まちの変化 100の記憶」が伝えるもの
第２節　【資料】周西地域史関連文献一覧

「すさい・まちの変化 100の記憶」が伝えるもの

1　「100の記憶」の位置づけ

第２章でも触れたように、周西分館時代から実施していた地域の歴史・自然・文化について学ぶ「地域再発見教室」は、2014(平成26)年に「地域課題学習講座」に組み換えられた。

しかし、市内公民館連携事業との関連もあり、再び2017(平成29)年度より、地域の歴史文化をテーマにした参加体験型事業「周西まるかじり」をこの「地域課題学習講座」として実施するようになった。

2019(令和元)年度、周西公民館の事業全体の見直しの機会もあり、それまでの「地域課題学習講座」とは別に「地域学習講座」を新設し、歴史・文化についての取り組みを移行した。この「地域学習講座」の２年目の企画として2020(令和２)年度にスタートしたものが「すさい・まちの変化 100の記憶」（以下「100の記憶」または本事業）であった。

2　まちの変化

周西公民館地区の沿岸部一帯は(株)日本製鉄東日本製鉄所君津地区の工業区域である。

この土地は、1821年に近江屋甚兵衛が人見村小糸川河口付近で海苔養殖に着手して以降、海苔養殖が産業となり、住民の多くは冬場は海苔養殖、春から秋は農業で生計を立てる半農半漁の生活を営んでいた。

北九州の八幡製鐵所株式会社（当時）が君津で操業するにあたり、1961年千葉県と工業用地造設分譲協定を締結した。地元では先祖代々からの生活基盤を根底から変える埋め立てには大きな反対があったが、紆余曲折の末２つの漁業協同組合が漁協権を譲渡。瞬く間に巨大な製鉄所が建設され、北九州を中心に労働者とその家族２万人以上が君津に移住した。さらに土地区画整理事業によって住宅地、学校、商業施設などのインフラが次々に整備され、より暮らしやすいまちへと姿を変えていった。

周西地区は製鉄所の進出により人々の仕事や暮らし・文化に大きな変化が起こり、他に類を見ないような大規模かつ急激な変貌を遂げてきた。この変化は、君津市のまちづくりの歴史を象徴的に表すものとも言える。

3　「100の記憶」取り組みのきっかけ

2021(令和３)年は、これらまちの変化のきっかけとなった海苔養殖開始から200年、千葉県と八幡製鐵の協定から60年の節目の年であった。また、君津市市制施行50周年にあたる年でもあった。

大きなまちの変化から50数年の歳月が流れていた。当時を知る方々は、当然に高齢化が進んでいる。

「ここ１、２年のうちに話を聞かなんだら、もう昔のことを話せる人がおらんようになるよ。それができるのは、公民館しかないよ」周西分館時代の「地域再発見講座」をきっかけに公民館活動を始め、仲間と共に地域の文化遺産や歴史を記録する活動を続けてきた地域住民の方から、このようなつぶやきを投げかけられたのは、2019(令和元)年のことだった。

これらが重なり合い、新たな取り組みを模索することになった。折しも、コロナ禍となり、大人数が参加するような取り組みが難しい状況となったことを逆手にとり、参加体験型ではなく調査・記録を主な手法とするスタイルで、当時を知る人の記憶や想いを記録化し、地域資料として残す事業として2020(令和２)年度に「100の記憶」がスタートした。

「100の記憶」という名称には、「100人にインタビューする」という大きな目標が込められていた。

4　取り組みの経緯

「100の記憶」は、大きく分けて３期に区切り、２年間の期間で取り組んだ。

2020(令和２)年度の第１期は「調査員」を

募集し、インタビュー調査を行うための基礎知識を学ぶ期間、2021(令和３)年度は、第２期インタビュー調査、第３期まとめ作業を行い、冊子を刊行した。

【第１期　学習会（2020年９月～12月）】

第1回	**オリエンテーション** ・企画の趣旨や計画について確認、自己紹介。 ・ドキュメンタリー番組「もうひとつの八幡製鉄所・君津-『民族大移動』から50年-」(2020年、RKB毎日放送)を視聴
第2回 第3回	**学習会　周西地域の変化** ・漁業権の譲渡や製鉄所の建設 ・土地区画整理・写真で見る周西地域
第4回	**学習会　聞き取り調査の基本** ・聞き取り調査を行う際のノウハウ、気をつけるべき点など
第5回 第6回	**協議　インタビュー調査計画** ・対象者の属性分類 ・調査(聞き取り)項目を21項目設定

８名の方が「調査員」として参加。コロナによる実施延期などもあったが、学習を終えることができた。



【第２期　インタビュー調査
（2021年５月～）】

インタビュー（調査員の皆さん・公民館職員）
・人生の物語と思いを大切に聞き取り、文章に起こしていく
・限られた文字数にまとめ、ご本人に納得いただけるまで校正
・インタビュー、執筆協力者
　・北九州から移住してきた方
　・地元で生まれ育った方
　・製鉄所の進出により漁業から転職を経験した方
　・長年新日鐵に勤務した方
　・社宅で子育てをした主婦の方
　・地元企業、商店、飲食店の経営者　　など

定例会（毎月１回）を開催
・インタビュー進ちょく状況の確認や情報交換

「私の話が役に立つのなら」の声や、「ぜひ自分の話を聞いてほしい」の電話、「この人に聞くと良いよ」の紹介などもあったが、お話をうかがう少し前に亡くなった方もいらっしゃった。

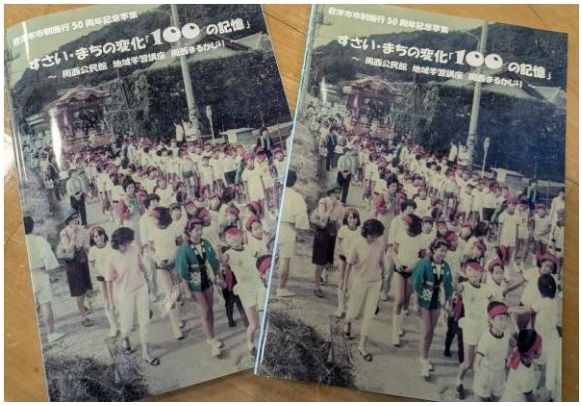
最初は言葉少なに語り始める方も、どんどん話が弾み、二時間では語りつくせないこともしばしばであった。

なお、この期間もコロナによる休館や活動制限で中断せざるを得ない時期もあった。



【第３期　発行】

2022(令和４)年３月、最初の学習会から２年半の期間をかけて『すさい・まちの変化100の記憶』が発行された。最終的には108名の原稿が掲載された。



５　「100の記憶」からの広がり

本事業と同時期に、福岡県の民間放送局・ＲＫＢ毎日放送株式会社が、君津製鐵所操業に伴い多くの人々が九州から君津へ移住し

た通称「民族大移動」に関するドキュメンタリー番組を制作していた。

番組ディレクターが初めて周西公民館に来館したのは、令和元年房総台風直後の秋のことだった。これをきっかけに、資料提供（例えば2017年特別企画展「団地のある街で」）や取材対象者の紹介などで連携を深めていった。コロナ禍の影響も受けながら、複数回、君津・周西に取材に訪れ、制作された番組が「もうひとつの八幡製鐵所・君津～『民族大移動』から50年～」であった。

ディレクター協力の下、2022年４月には「100の記憶」発行に合わせた番組上映会を周西公民館で開催し、多くの注目を集めた。

同年には発行を契機として、文化祭特別企画での土地区画整理事業の記念碑を巡るウォーキングイベントや、他地区での事業報告を行った。

また、2025（令和７）年にも九州地方の新聞に「100の記憶」が取り上げられた。



６　「100の記憶」を振り返る

「100の記憶」に調査員として携わった２人の方に、発行から３年数ヶ月が経過した今、改めて感じること・考えることを寄稿いただいた。

■地域誌にしか残せない「100の記憶」

『すさい100の記憶』に携われた事はとても光栄でした。当時私は周西公民館の幼児家庭教育学級「たんぽぽ学級」に参加しており、そのプログラムの中で周西マップクラブの元岡さんから街の歴史について教わった事が大変興味深く、元々歴史好きであった事もあって、元岡さんがいらっしゃるならぜひ事業に参加したいと思い仲間に入れていただきました。

『100の記憶』は、この地区に長く住む方にお話を聞いてその思い出と共に昔の周西地区の事を記録していくといったもので、私は当時副館長だった藤平さんと共に、昔を語ってくれるおばあちゃん世代の女性に話を何件か伺いました。やはりインタビューは男性は男性の、女性は女性のインタビューを。というのが大正解で、仕事の事などは男性同士の方が理解しやすいし、女性は女性同士の方が共感しやすい。当時の子育ての事、買い物事情など、時代が違っても共感できる部分が多い事はとても興味深かったです。中でも印象的だった事は、日本製鐵が君津に来る以前、自分が子供だった頃はこの辺りは農業も漁業もやっていて、海で貝をとり、海苔を作って、その海苔は館山から来た漁師さんが獲った魚と物々交換、田んぼでお米は獲れるし、じいちゃんが山に行ってイノシシやキジを獲ってくるからたまに肉も食べ、鶏も飼っているから卵や鶏肉も食べていた。日本が貧しい時代でも、お金が無くても食べる事には事欠かなかった。時代が経って成人して長野県出身の夫に、あの頃の日本人の中では相当豊食だなあと言われた。と語る女性の話を聞いて、気候風土が穏やかなこの地区ならではのお話だなあ。確かに長野の山奥じゃこうはいかないだろうなあ。と切に思いました。

他の女性から聞いた話にも、日本製鐵が君津に来てから人口が爆発し、学校も子供達でいっぱい！当時の大和田小学校は児童1000人、教頭先生は２人もいた。というお話もあってびっくりしました。

日本製鐵が君津に来てから、君津に元々住んでいた人々の生活も、九州から民族大移動で来た人々の生活も、大きく変わった事がよくわかる、先人達の苦労と生活の営み、喜びなどがぎゅっと詰まった『100の記憶』。コロナ禍で思ったような活動ができない事もありましたが、日本の歴史図鑑には載らない地域ならではの一冊を、職員さんと地域の

人々によって作り上げた事は、公民館事業としてとても素晴らしい事でした。この事業に携わり、様々な学びや経験を得られた事を感謝いたします。　　（朝生 真由美）

■人々の記憶を通して見る歴史

周西公民館において「すさい・まちの変化100の記憶」の事業がスタートしたのは令和２年（2020）９月、まだコロナ・パンデミックの真っ只中の時期であった。当初は「100人の方々にインタビューをしてその記録を約１年でまとめる」という大掛かりな計画を聞き、この情勢下で本当にできるのかというのが正直な思いであった。しかしながら、月１回の定例会議は着実に進められていき、５回目の会議では、実際にどのような人を対象にインタビューをするのかという対象者の種分けが議題となった。私が素案を作成する任を受け持ち、その結果、25項目の対象者区分が想定された。

具体的にどのような分類があったかというと、〇新日鐵関係に勤務し北九州方面から移住してきた人、〇地元出身で新日鐵関係に就職した人、〇地元出身の女性で新日鐵関係の移住者と結婚した人、〇大和田社宅で幼少期から生まれ育った人、など新日鐵に関係する項目がある一方、〇地元出身で商店・飲食店の経営に携わった人、〇市役所や公共施設の業務に携わった人、〇周西地域に生まれ育って他の地域に住んだことがない人、〇海外から周西地域に移住してきた人、〇周西地域の生まれで現在は他の地域に住んでいる人、などの項目もあり、より幅の広い立場、多角的な視点から、周西地域に関する人々の記憶、印象、意見、思い出、感想などを収集しようとした。

実際にインタビューを始めてみると、必ずしも一つの区分に当てはまらない場合や、複数の区分を兼ねるような人もいたが、最初の段階で色々な区分を想定して、インタビュー対象者の人選を行ったことは、より幅広い様々な観点からの「記憶」を集める上で有効だったのではないかと考える。残念ながら出来上った冊子には、紙面の都合からか、このような対象者の区分けやインタビューを行うまでのプロセスが省略されているが、それも一つの「記憶」としてここに書き記しておく。

周西地区は、君津市全体の中にあっても激変した地域であると言って良い。中でも昭和30年代末から40年代前半頃にかけての高度成長期における漁業権譲渡と新日鐵の操業、それに続く一連の区画整理事業は町を大きく変貌させた。ただし新日鐵に関わる変化だけをことさらに大きく取り上げるだけでは、見失う部分も多いと思われる。その意味で、１冊にまとめられた「100の記憶」の記事は、それぞれの職業、それぞれの世代、それぞれの人生の中で捉えられた地域の歴史の集大成ともなっており、今後の新しい地域づくりに向けてのヒントにもなるのではないかと思う。　　（小沢　洋）

7　「100の記憶」がつなげるこれからの未来

本事業を担当した職員達は、次のようなコメントを残している。

・お一人おひとりの人生の物語に胸が熱くなった。原稿に起こすときは、できるだけその方の思いや情景が伝わるよう心がけたが、それでも書ききれないことがたくさんあった。改めて、「聞く・記録する」ことの大切さを学んだ。
・製鉄所の進出は、多くの人たちの運命を変えた。その捉え方は百人百様ながらも、みなこれまでの人生を肯定し、これからのまちづくりへの期待を語ってくれた。
・幾人もの記憶を統合し、全体を俯瞰すると、表面的に理解していた「過去」が多角的に、深みを増して見えてきた。
・一滴の雫が大河に収斂されていくように、いくつもの人生が縒り合され、やがて「まちの歴史」そのものになっていくということを実感した。
・この冊子を単なる回顧録にせず、まちがたどってきた歴史を捉え直し、人々の活動の記録や想いから学ぶことは、これからのま

ちづくりを考えるうえで大きな意味があるのではないだろうか。

地域の歴史を記録していくことは、単に過去を懐かしむだけではない。激動の時代を駆け抜けた先人たちの軌跡を辿り、その想いに触れることは、私たちが立つ「今」の価値を再発見し、「未来」を展望するための確かな足がかりとなる。

個人の記憶や想いの多くは、放っておけばやがて消えてしまう。しかし、それらを丁寧に集め、編み上げることで、次世代へと受け継がれる「地域の歴史」となる。

様々なきっかけとご協力を得ながら、100名を超える想いを形にしていった取り組みが「100の記憶」であった。

周西公民館が20周年を迎えた今日、未来のまちに想いを託すため、地域の歴史文化の継承や資料として形に残すことに公民館が果たす役割・責任は、これまで以上に明確になったと言える。この記録された記憶こそが、新たな地域を創り出すための、礎となるだろう。

※なお、本節の２～５は『公民館で学ぶⅥ コロナ禍を超えて未来を創る』(2023/長澤成次編著/国土社)に収録されている『すさい・まちの変化「一〇〇の記憶」』(三枝美和子)を参考・引用し、一部加筆等して作成した。

【資料】周西地域史関連文献一覧

「100 の記憶」作成にあたっては、「記憶を記録へ」という合言葉のもと、多くの地域住民の方々へのインタビューとともに、多数の関係文献を引用・参照した。

周西地域の歴史を後世に語り継ぐことは、公民館の重要な役割である。先人が編み出した貴重な財産を「地域の宝」として次世代へつなぐため、また、地域の歩みを深く知るための手引きとして、「100 の記憶」及び本記念誌発行を契機に改めて整理・把握できた周西地域史関連文献をここに目録としてまとめた。

掲載資料には当館で保管しているもののほか、君津市中央図書館や他機関に収蔵されている貴重な資料も含まれている。

- **『千葉県君津郡君津町誌 前編』**君津町誌編纂委員会・君津町　1962(昭和37)年10月30日
- **『転勤者のしおり』**君津製鐵所人事課　1969(昭和44)年４月１日
- **『千葉縣産業文化財史蹟 近江屋甚兵衛翁史』**川名邦五郎　1969(昭和44)年11月
- **『君津市立周西中学校創立五周年記念誌』**周西中学校PTA　1973(昭和48)年２月24日
- **『千葉県君津郡君津町誌 後編』**君津町誌編纂委員会・君津市　1973(昭和48)年９月30日
- **『君津冷延工場10周年記念誌 飛翔10年』**新日本製鐵株式会社 君津製鐵所　1975(昭和50)年４月１日
- **『のりひび』**神門自治会　1976(昭和51)年11月20日
- **『周西周学校「創立十周年の歩み」』**周西中学校十周年記念事業実行委員会　1978(昭和53)年３月
- **『創立十周年記念誌 十年のあゆみ』**大和田小学校十周年記念実行委員会　1978(昭和53)年11月８日
- **『君津市君津地区商店街診断報告書』**君津市・君津市君津商工会・千葉県中小企業総合指導所　1979(昭和54)年３月
- **『坂田郷土誌』**坂田土地区画整理組合　1981(昭和56)年11月10日
- **『埋立20周年記念 はまっぺ』**君津市漁業資料保存会　1982(昭和57)年７月22日
- **『瑞雲』**君津市久保土地区画整理組合　1983(昭和58)年３月29日
- **『日々新たに 君津製鐵所20年史』**新日本製鐵株式会社　1985(昭和60)年４月１日

・『礎』君津市中野土地区画整理組合 1986(昭和61)年10月１日
・『Ｔｈｅ　Ｌｉｏｎ きみつ 20周年記念特集号』君津ライオンズクラブ　1988(昭和63)年２月21日
・『星霜20 創立二十周年の歩み』君津市周西中学校　1988(昭和63)年３月＊奥付記載なし
・『燦 人見郷土誌』君津市人見土地区画整理組合 1991(平成３)年３月
・『収蔵資料解説書』君津市漁業資料館・君津市教育委員会　1992(平成４)年７月１日
・『周西地区民俗調査報告書 人見・神門を中心として』君津市民俗総合調査会 1995(平成７)年３月31日
・『神門雑記－古きを訪ねて新しきを知る－』石井澄雄　1995(平成７)年８月10日
・『周西幼稚園開園30周年記念誌 すこやか』君津市立周西幼稚園　1995(平成７)年11月10日
・『神門雑記(その２)－古きを訪ねて新しきを知る－』石井澄雄　1996(平成８)年１月10日
・『地域再発見 周西の歴史を訪ねて』周西分館地域再発見教室　1996(平成８)年２月27日
・『君津製鐵所30周年記念写真集 躍進の軌跡 -エバーフレッシュ 君津-』新日本製鐵株式會社 君津製鐵所　1996(平成８)年３月
・『神門雑記(その２)改訂版』石井澄雄 1996(平成８)年８月10日
・『収蔵資料目録』君津市漁業資料館 1997(平成９)年８月10日
・『創立30周年記念誌 丘の風』周西中学校創立30周年記念事業実行委員会　1998(平成10)年３月吉日
・『坂田自治会報 創刊～40号総集編』平成９年度坂田自治会　1998(平成10)年３月30日
・『千葉県君津市立周西小学校 創立百周年記念誌 学窓に風光る』千葉県君津市立周西小学校創立百周年記念事業実行委員会 1998(平成10)年11月８日
・『君津市立坂田小学校創立三十周年記念誌 丘に立てば』君津市立坂田小学校創立三十周年記念実行委員会　2000(平成12)年11月21日
・『企業誘致の記憶－君津と新日鐵』千葉県立上総博物館　2003(平成15)年３月20日
・『君津町漁業協同組合文書資料目録[1]』君津市漁業資料保存会　2004(平成16)年４月10日
・『君津町漁業協同組合文書資料目録[2]』君津市漁業資料保存会　2005(平成17)年４月10日
・『君津町漁業協同組合史料集［1］』石井澄雄　2005(平成17)年11月３日
・『君津町漁業協同組合史料集［2］』石井澄雄　2006(平成18)年８月10日
・『人見浦漁業史』石井澄雄　2007(平成19)年３月３日
・『漁協史料からみた人見浦』石井澄雄 2008(平成20)年6月1日
・『埋め立て50周年記念誌 神門』石井澄雄 2011(平成23)年８月
・『南風-NANPU-』君津市立周西南中学校創立30周年記念事業実行委員会　2015(平成27)年11月
・『周西公民館開館10周年記念誌「ひだまり」』周西公民館開館10周年記念事業実行委員会　2016(平成28)年３月31日
・『周西地域誌』周西マップクラブ　2016(平成28)年10月
・『君津市立大和田小学校創立５０周年記念誌 つなぐ』君津市立大和田小学校創立50周年記念事業実行委員会　2017(平成29)年11月11日
・『君津市立周西中学校創立50周年記念誌』君津市立周西中学校創立50周年記念事業実行委員会　2017(平成29)年11月11日
・『周西幼稚園閉園記念誌 きぼう～開園から５２年間のあしあと』君津市立周西幼稚園　2018(平成30)年３月15日
・『周西ガイドブック』周西マップクラブ 2019(令和元)年10月
・『令和元年 台風15号・19号・大雨～私たちに残したもの・問いかけること～周西公民館地区の記録』君津市周西公民館 2020(令和２)年３月
・『君津市立坂田小学校創立50周年統合記念誌「継」つむぐ～未来への道』坂田小学校創立50周年統合記念事業実行委員会 2022(令和４)年３月
・『君津市立大和田小学校総合記念誌 6430人のかがやき』君津市立大和田小学校総合記念事業実行委員会　2022(令和４)年３月11日